

# 宇治市小中一貫教育推進協議会委員 市立中学校ブロックで進む小中一貫教育を視察

宇治市小中一貫教育推進協議会は、市立小・中学校の小中一貫教育の取組全般について進行管理を行うために、内容の点検・確認とともに改善点について協議しています。協議会は学識経験者、小・中学校保護者代表、地域関係団体代表、小・中学校教員代表で構成しています。

今年度の活動の一環として、2学期には中学校ブロックの取組を視察しました。年度末には、今年度の取組全般の進行状況を確認し、今後の取組について協議する予定です。



北宇治中ブロックの取組を視察

ブロックの小・中学校から教員が（会場校の授業）参観に来ており、自校との違いに気づくと同時に、とりわけ、中学校教員にとっては来春に入学してくる6年生の様子を見る貴重な機会になったことでしょう。

同じ単元を扱いながら、教員によって進め方やメディアが大きく違うことにも気づくでしょうし、こうした機会をきっかけに教員間で相談、情報や内容の交換などを進めてほしいと思います。（学識経験者委員）



第1回会議

6年生の「中学校半日体験入学」の様子を拝見しました。

全体会では中学校の生徒会が中心になって運営し中学校生活への期待感を高めるとともに不安が解消できるよう様々な工夫がなされていました。

「部活動体験」では、全児童が第1希望の部活動での体験が叶うよう調整されており、あたたかい配慮が感じられました。（教員代表委員）



東宇治中ブロックの取組を視察

（中学校教員が小学校で授業する取組で）外国語活動・音楽・社会の授業を参観させて頂きました。

どの授業も中学校の先生が中心に授業を進めていらっしゃいましたが、いずれの先生も大変楽しそうに授業をされていました。それと同時に児童たちも生き生きとした表情で授業を受けていたことがとても印象的でした。

今回の取組により児童たちが中学校の先生に親しみを覚え、中学校に対する不安感を少しは取り除くことができたのではないかと思います。一方で中学校の先生方が今日のためによ行きの授業をされたのであれば、実際に児童たちが中学校に進学した際、ギャップに戸惑うのではないかと一抹の不安を覚えました。

事後研究会の様子も拝見しましたが、先生方がとても熱心に意見を交わしてくださっている様子を拝見し、小・中学校の先生方の連携が進んでいることを実感できました。

全体を通して、小中一貫教育が目指す方向性は間違っていないことを確信できた視察でした。（地域関係団体代表委員）

## 小中一貫教育の目標 「学校が変わり、地域が変わり、そして、子どもたちが光り輝く小中一貫教育」

～ 本市は2つの形態（小中一貫教育校と小中一貫校）で小中一貫教育を進めています ～

### 小中一貫教育校（施設分離型）



「小中一貫教育校（施設分離型）」は、小学校と中学校の施設がそれぞれ独立しているものの、教育目標やめざす子ども像などを一元化し、「1つの学校」として機能する形態で、それぞれの教職員、児童生徒が積極的な交流を行いながら教育活動を展開します。9中学校ブロックは下記のとおりです。

### 小中一貫校（施設一体型）



「小中一貫校（施設一体型）」は、小学校と中学校の施設、組織・運営を一体化した形態で、教職員、児童生徒が同一敷地で日常的に交流を行いながら教育活動を展開します。平成24年4月、施設一体型小中一貫校として「宇治黄檗学園」（宇治小学校・黄檗中学校）を開校しました。

黄檗中ブロック [宇治黄檗学園] 黄檗中学校・宇治小学校

### 小中一貫教育校の中学校ブロックについて

今後、小中一貫教育の成果をみながら、分散進学を解消を図ってまいります。その際には学校規模の適正化や学校配置の在り方なども考慮に入れながら、通学区の調整なども含めて校区再編の方向について検討していく予定です。左の表は、当分の間、小中一貫教育校（施設分離型）として小中一貫教育を進めていく9つの中学校ブロックを構成する学校群を示したもので、校区再編を進めていくための「学校の分け方」を示したものではありません。

なお、※印の小学校では卒業生が2つの中学校に分かれて進学（分散進学）しており、上記に記載しているブロックとは異なるブロックの中学校に進学する地域があります。この地域の児童に対しては、進学する中学校への体験入学など児童生徒の交流活動について従来通り実施しています。

宇治中ブロック	宇治中学校・菟道小学校・菟道第二小学校
北宇治中ブロック	北宇治中学校・小倉小学校・北小倉小学校
横島中ブロック	横島中学校・横島小学校・北横島小学校
西小倉中ブロック	西小倉中学校・西小倉小学校・南小倉小学校
西宇治中ブロック	西宇治中学校・神明小学校・伊勢田小学校
南宇治中ブロック	南宇治中学校・西大久保小学校・平盛小学校
広野中ブロック	広野中学校・大久保小学校・大開小学校
東宇治中ブロック	東宇治中学校・三室戸小学校・南部小学校・岡屋小学校※
木幡中ブロック	木幡中学校・木幡小学校・御蔵山小学校・笠取小学校・笠取第二小学校

昨年1学期に実施しました「小中一貫教育についてのアンケート」（抽出調査）にご協力いただきました児童生徒や保護者の皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。この調査の結果は、今後の小中一貫教育の推進に活用させていただきます。なお、調査結果の概要は次号の「宇治市の小中一貫教育」などでお知らせする予定です。

# 宇治市の 小中一貫教育

発行 平成25年3月

宇治市教育委員会事務局  
教育改革推進室小中一貫教育課  
〒611-8501 宇治市宇治琵琶33番地  
Tel 0774-21-1890  
E-mail ikkankyouiku@city.uji.kyoto.jp

## 小中一貫教育実施1年目

### 新たな学校文化の創造への第一歩を踏み出す



大久保小学校1年生に紙芝居の読み聞かせをする広野中学校1年生

平成13年度より研究と試行を行ってきました小中一貫教育を平成24年4月からすべての市立小・中学校で実施しています。

本市がめざす小中一貫教育は「学校が変わり、地域が変わり、そして子どもたちが光り輝く小中一貫教育」を目標とし、めざす子ども像を「将来の夢を持ち、自己実現に向けた努力ができる子ども」の育成としています。

義務教育9年間の連続した学びの中で、子どもたちに確かな学力を身に付けさせるとともに、一人一人の個性や能力を伸ばすことができるよう、中学校ブロックごとに取組を進めています。



ペア学年(2・4・7年)交流で大縄跳びを練習  
【黄檗中学校ブロック（宇治黄檗学園）】

## 陸上部員が小学生駅伝の指導支援

宇治中学校陸上部員が宇治市小学生駅伝大会に参加する児童を対象に2度にわたって駅伝の指導支援を行っています。〔1回目は小学校ごと（写真は菟道第二小学校）に、2回目は太陽が丘で実施〕

小中一貫教育は中学校ブロック単位で進めていくため、取組提案が遅くならないよう、早めの計画・立案を心がけています。また各校でスムーズな提案ができるよう、取組の詳細をこまめに連絡・確認することも大切にしています。

それぞれの取組がスムーズに行えるよう支援し、特に新しい計画に対しては、担当の教員が無理なく取り組めるよう積極的にサポートしながら小中一貫教育が更に推進できるような心がけています。

様々な取組が教員及び保護者の方々にも周知できるよう、広報にも力を入れています。

【宇治中学校ブロックチーフコーディネーター】



小学生に駅伝の指導支援をする中学校陸上部員  
【宇治中学校ブロック】

## 小中合同授業研究会を開催

小・中学校3校の教員が指導案づくりから協議し、小・中学校の指導内容のつながりを意識し、児童生徒にとって魅力的な授業づくりを進めています。

3校の特色を生かしながら、小中一貫教育の取組を進めています。また、様々な取組を常に見直しながら、児童生徒にとって有意義なものとなるよう心がけています。

【北宇治中学校ブロックチーフコーディネーター】



公開授業をチームティーチングで行う小・中学校教員  
【北宇治中学校ブロック】

## 小・中学生の主張交流会

6年生と中学生の代表が自分の夢や考えについて主張交流を行っています。素晴らしい発表とそれを真剣に聞き入る児童生徒の姿に、ブロックのめざす子ども像の姿が示されています。

「義務教育9年間の系統的・継続的な指導」を実現するために、2小1中で授業システムづくりに取り組んだり、小中一貫教育を支える小小連携を2小学校の6年生の指導支援を切り口に進めたりしています。また、「義務教育9年間+αの連携で、家庭・地域と共に子どもを育てる」ために、地域行事へ積極的に関わったり、地域への情報発信を進めたり、地域と学校をつなぐ役目を担っています。

【横島中学校ブロックチーフコーディネーター】



主張交流する小・中学生  
【横島中学校ブロック】

## ブロック合同研修会

ブロック2小1中の教職員が一堂に会して、年間4回の合同研修会を行っています。夏季研修会では、義務教育9年間を見通して、15歳になったときどのような人に育ってほしいかを話し合うなど、毎回いろいろなテーマを設定して研修しています。



合同研修会で協議する小・中学校教員  
【西小倉中学校ブロック】

中1ギャップの解消に向け、英語・外国語活動を中心に小小連携を深め、両校での指導内容の統一化を図っています。また、西小倉中学校ブロックとしてのホームページを作成し、小中一貫教育について保護者や地域の方への啓発に努めています。

【西小倉中学校ブロックチーフコーディネーター】

## 6年生の中学校半日体験入学

6年生が中学校を訪れ、入学前に中学校の教室で50分授業を体験したり、希望する部活動に参加したりして中学校生活の一部を体験しています。



中学校教員の授業を体験する小学生  
【西宇治中学校ブロック】

西宇治中学校ブロックでは、周辺ブロックとの取組での歩調を合わせることに注意を払っています。また、形だけの取組ではなく、児童生徒にとって実のある取組となるように、コーディネーター会議を中心としてブロック内の連携を大切にしています。

【西宇治中学校ブロックチーフコーディネーター】

# 「将来の夢を持ち、自己実現に向けた 努力ができる子ども」の育成をめざして…

すべての中学校ブロックでは、小・中学校の全教職員が協働して小中一貫教育を進めるため、小中一貫教育推進委員会（ブロックによって異なる名称）を組織し、小中一貫教育チーフコーディネーターが組織の要となっており、地域や学校の特色を生かしながら、義務教育9年間の連続性を意識した系統的・継続的な指導を進めています。

各中学校ブロックは「教職員の指導力向上」をめざした合同研修会（授業研究会）、「小・中学校のなめらかな接続」をめざした半日入学などの中学校体験活動や乗り入れ授業、「豊かな人間性や社会性の育成」をめざした小中合同授業や児童会・生徒会合同会議、「学校・地域・保護者が一体となった教育環境づくり」をめざした育友会（PTA）合同研修会の開催、地域行事への参加などを行っています。今回は、中学校ブロックが行っている取組の一部を紹介しています。

## 児童会・生徒会合同活動

3校の児童会と生徒会の本部役員が一堂に会して「小中一貫教育のできることを協議し、京都府南部地域豪雨災害「街頭募金活動」や合同あいさつ運動などを3校で取り組んでいます。

小中一貫教育実施の1年目として、児童生徒の直接的な交流のような教育活動だけでなく、長期的な視点に立った「学力向上」「地域に根ざす」9年間を見通した教育活動の基盤づくりに努め、小・中学校の教職員が足並みをそろえて推進していくことも大切に考えています。

【南宇治中学校ブロックチーフコーディネーター】



合同で募金活動を行う児童会・生徒会代表  
【南宇治中学校ブロック】

## 中学生による小学生への読み聞かせ

ブロックの重点目標の一つである「伝え合う力の育成」に向け、中学生は「宇治学（総合的な学習の時間）」、小学生は「国語科」の学習として、中学1年生が小学1年生に紙芝居の読み聞かせを行っています。

広野中学校ブロック（宇治ひろの学園）では、小・中学校の接続をスムーズなものとするため6年生の中学校での学習体験や部活動見学を行っています。また、中学生が小学校を訪問し、運動会での吹奏楽部の演奏や紙芝居の読み聞かせ、クラブ活動での実技指導や学習支援等を行うなど、小学生と中学生の活発な交流を進めています。こうした取組の中で中学生の自尊感情や小学生の年長者への憧れなどを育てていきたいと考えています。チーフコーディネーターとして、こうした取組がうまく進むように3校の連絡・調整を丁寧に進めるようにしています。



小学1年生に読み聞かせをする中学1年生  
【広野中学校ブロック】

## 育友会（PTA）合同研修会

義務教育の仕上げとなる3年間を同じ中学校で学ぶ子どもたちの保護者同士及び教員の繋がりがづくりを行っています。今回は、子どもを取り巻くIT（情報技術）環境について交流を行いました。

「小中一貫教育だより」で取組内容を伝えていきます。今年度は、4校全てのPTA（育友会）総会に参加し、チーフコーディネーターとして紹介してもらいました。また、子どもたちが土産話として持ち帰ることが一番のアピールだと考え、小中連携加配教員やAET（英語指導助手）と協力しながら取り組む内容を考えています。

【東宇治中学校ブロックチーフコーディネーター】



育友会（PTA）合同研修会に参加する保護者  
【東宇治中学校ブロック】

## 小中連携加配教員による小学校での理科の授業

中学校在籍の理科教員が毎週、ブロック内の小学校を訪れ、6年生の理科の授業を小学校担任と一緒に進めています。時には、京都教育大学の先生と連携した理科の授業を行うこともあります。



小学校で大学の先生と授業を行う中学校教員  
【木幡中学校ブロック】

小中の系統性・継続性を持った指導、中1ギャップの解消を目標に取り組んでいます。学習内容における系統性を各教員が意識し、日々の授業に生かす目的で初めて合同授業研究会を持ちました。小学校での小・中学校教員によるTT授業<sup>(※)</sup>を目標に取り組み、何回かの事前研究会を経て全8教科で工夫を凝らした授業ができました。領域部会では生活面での9年間を通しての努力目標を設定し、日々各校で継続性を持った指導を展開しています。また、広報活動では小・中学校の全家庭、6年生、全教員向けにそれぞれ「小中一貫だより」等を毎月作成し情報発信に努めています。

【木幡中学校ブロックチーフコーディネーター】

(※) TT授業（チームティーチング授業）：複数の教員がチームを組んで行う授業

## 中期（5・6・7年）で取り組む「宇治学」

中期（5・6・7年）の児童生徒が異学年のグループを作り、7年生（中学1年生）がリーダーとなって自分たちで選択した課題について共同で探究活動を行う宇治学中期共同学習（絆科）の取組を行っています。



宇治学中期共同学習に取り組む児童生徒（5・6・7年）  
【黄檗中学校ブロック（宇治黄檗学園）】

小・中学校の教員がお互いを理解し、違いを認め合いながら共に一つの学園を創造していくという使命感を抱いて日々の指導にあたることのできるような仕事の分担をしています。「一つ屋根の下」という意識を持ち、宇治市の小中一貫教育を引っ張っているという意識を高めています。【黄檗中学校ブロック（宇治黄檗学園）チーフコーディネーター】

## 「宇治黄檗学園」という愛称について

宇治小学校と黄檗中学校では、児童生徒や教職員などが一体感を持てるように、市民から公募した「宇治黄檗学園」という愛称を使っています。